

放射線科

文責:金子 隆文

概要

箕田俊文、金子隆文、狩野裕一、の常勤3名と、非常勤:小池晋司(週二回半日)の4人体制で診療を行っている。

業務内容

検査(MDL・DDL・血管造影・IVR(一部))、読影(CT・MRI・RI・PET)、dataの整理、健診(健康管理科フィルム読影の一部お手伝い)、及び、放射線治療を行ってきた。

診断検査部門では、CT二台による、心血管、骨軟部組織、等々の各種臓器の3D表示。MRI二台によるMRA・MRCP脳血流、心機能解析。PET検査による癌診断など、新しい分野での画像診断も定着し、さらなる検査精度の向上や時間短縮が得られている。また、血管造影装置2台、RI検査部門(ガンマカメラ装置)が順次更新された。また、R2.6月からはハイブリッドオペ室での機器運用が始まっている。病院オーダリングシステム(HISおよびRIS)では、放射線検査データのデジタル保管及び、PC端末を利用したレポートシステムが順調に稼働。フィルムレス運用も、従来のフィルムの代わりに、各診療科外来・病棟のPC端末で画像デジタルデータおよびレポートが、参照・運用されている。なお、2019年度末より富士通社製の電子カルテへの移行がなされた。

医療機器共同利用システムとして、病診連携室の協力も得て、PET,CT, MRI, RI検査等(放射線検査)の院外診療施設よりの直接依頼受入体制(検査直接申し込みによる外来検査予約とし、紹介状と検査依頼書の作成添付をお願いし、検査当日の報告時には、検査フィルム+検査報告書を原則添付)も順調に稼働している。こちらも従来のフィルムその他、フィルムレス化しデジタルデータ管理(CDに画像viewer soft 付きDICOM dataとして記録したもの)の添付とともに、院外へのネット配信も可能としている。

画像検査部門:令和2年度の年間検査件数-レポート件数-は、CTが14906件、MRIは4447件、RIは260件、PETは374件、消化管透視は51件(胃・大腸)であった。RI以外で検査件数が前年度と比較してやや減少している。他、IVRは、血管造影が約53件で、これに加え、気管ステントやCT下穿刺などの、非血管領域が40件施行された。

放射線治療部門:CTをベースとした治療計画システムと、患者固定装具の導入、治療室同室CT装置導入で、定位集光放射線治療も可能な設備とし稼働している。尚、R2年7月より、新規装置(バリアンメディカルシステムズ社製liniac TrueBeam)へ更新。(診療はR3年1月より開始された)また、H23.11.4より、泌尿器科と共に開始された前立腺密封小線源治療は、引き続き順調に稼働している。

外照射治療及び治療計画は、月~金の連日午後外来としている。因みに、新患登録(R2.4.1~7.22, R3.1.6~3.31)54例、外照射治療計画件数は68件(追加計画3例含)であった。前立腺密封小線源治療は、2-3例/隔週~3週/月の木曜日1日で、治療患者数(R2.4月~R3.3月)として、66例(外照射併用7例含)に施行。他、放射線同位元素内用療法として、Ra治療2例8件施行された。